

★タダ巻きすると底付近で良型のカサゴが食ってきた

ヒット。パターンは  
バイト  
ビーンズTGの  
タダ巻き

★1.5キロ級のショゴ(カンパチの若魚)がヒットし、SLJタックルならではのスリリングなファイトを堪能した

吉岡進の釣りを楽しく感じるままに

# E2E

Enjoy Every Fishing no.02

## 外房大原沖の SLJ (Super light jigging)

撮影◎本誌編集部

Profile ◆よしおかすすむ  
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。

いいね〜

うれい〜

▶海面に浮上したマハタを船長がタモで取り込んだ



◀ミヨシへ走られる

▼引かれるほうへ移動



▲ミヨシでファイト開始

▶ゆっくり浮上するショゴを船長がスパッとすくう

▶ボディが小さいので5センチ前後のベイトを捕食しているときに有効。タダ巻きするとブレッドが回転しフラッシングでアピールする。フックはフロントに付いているので根掛かりしにくい



◎浅いポイントではスピニングタックルでルアーをキャストして斜めに引いて広く探るのも一手。ルアーが着底したらタダ巻きして底上10メートルまで到達したらカーブフォールさせて再着底。これを船下まで繰り返す。

SLJの釣り方1  
キャストして斜めにタダ巻き

めっちゃ  
くちや  
楽しい〜

◀ルアーをフォールさせるときはリールのスプールエッジに軽く指を添え、糸フケがなるべく出ないようにする

★しなやかなSLJ専用ロッドが弧を描く

ヨッシーこと吉岡進がルアー釣りを中心に色んな釣り物を狙い、毎回釣りの楽しさを伝えていく当連載「Enjoy Every Fishing (略してE2E)」。第2回は外房大原沖のスーパーライトジギング(以下SLJ)。  
100グラム以下の軽いジグとライトなタックルを使い、好きに巻いたり、シャクったりして自由に楽しむことができる。  
基本的には底付近の根魚と、宙層の青物を狙う釣りながら、魚種が多様な外房の海だけに、何が食ってくるの分からないのが魅力。ライトだからといって小物ばかりではなく、10キロオーバーのヒラマサなど大物がヒットする可能性だって十分ある。

★2キロ級のマハタを釣り上げた鹿島一郎さん



▶釣り場は大原沖の水深20~50メートル前後。片舷に並んでドテラ流して広く探る

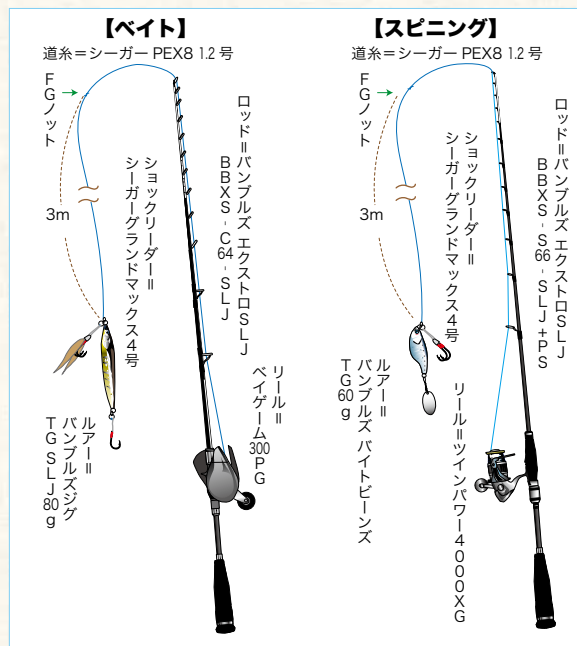


◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。船釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします!

#Enjoy Every Fishing Tackle guide

SLJタックル

●タックルはルアーを投げて広く探るときはスピニング、船下を狙うときはベイトと使い分ける。フルソリッドのSLJ専用ロッドならしっかり曲げてファイトを楽しむことができる。当地では大型のヒラマサがヒットすることもあるので、広布号では道糸はPE1.2号を推奨している。



●1キ口級のマダイ。広布号のSLJ兼合はタイラバもOK。SLJと同じく道糸はPE1.2号を推奨



▲スローなジャークのあとにフォールでバイトしてきた良型のウツカリカサゴ



▲船宿オリジナルの広布号タンクステンジグ100グラムが大活躍。ウツカリカサゴとエンゴが釣れた



▲着底後の巻き始めにカサゴが食ってきた



#船宿インフォメーション information

外房大原港 広布号

☎070・3526・1091  
(詳細は巻末の情報欄参照)

●外房大原で気軽なSLJを楽しませてくれる広布号。SLJの普及に積極的な野島幸一船長は、もちろんベギナー大歓迎。ドテラ流しで片舷にしかお客さんを入れないので、オマツリもしづらい。ポイントを熟知しているので、アタリが遠くなればすぐに移動してくれるためやる気を維持できるし、ていねいなアナウンスで状況を伝えてくれるからとても釣りやすい。広いキャビンも備えた大型船は快適そのもの。レンタルタックルもあるので初めての方もぜひ足を運んでほしい。

●料金=スーパーライトジギング乗合一人1万2000円(氷付き)  
●備考=予約乗合、午前船5時半、午後船11時半集合、集まり次第出船



▲フロントはフラットデッキで釣りやすい。船内には予備のタックルを収納できるロッドホルダーがたくさん設置されている



▲外房の海で実績抜群のオリジナルルアー「広布号ジグ」「広布号タンクステン」と専用フック「広布号フック」も販売中



▲アフターフィッシングは時間を忘れて船長との釣り談義に花を咲かせる



▲アフターフィッシングは時間を忘れて船長との釣り談義に花を咲かせる



見てよ！  
この曲がり  
超気持ちいい

●SLJの基本はワンピッチジャークで底上10メートルまで探る。底から5メートル上まではスローな誘いで根魚にアピール。アタリがなければ1秒間にハンドル1回転のワンピッチジャークで宙層を探り青物を狙う。

**SLJの釣り方2**  
バーチカルでワンピッチジャーク



▲底付近をゆっくり探るときは1シャクリでハンドル2分の1回転させる



▲フロントフックに専用のネクタイを装備しアピール力が高い。カラーはアピール度の高いゴールド系とナチュラルなシルバー系の2パターンがあると様々な天候や海況に対応できる

4月下旬に釣行したのは外房大原港の広布号。野島幸一船長が向かった釣り場は大原沖の水深40メートル前後。この海域で釣れるのはハタ類、カサゴなどの根魚やヒラマサ、イナダ、カンパチなどの青物、ほかにマダイなど様ざま。

ポイントに到着するとベイトの反応がバッチリ映っているとのこと。ヨツシーはブレード付きのSLJ用ルアー「バンブルズ バイトビーンズ TG」60グラムをキャスト、タダ巻きするとカサゴがヒット。さらに「バンブルズジグTGS LJ」80グラムで良型のウツカリカサゴを釣り上げた。

その間、船内ではジギングでシヨゴ(カンパチの若魚)やマハタ、タイラバでマダイが釣れて盛り上がる。今回は専用ロッドとルアーを使い外房のSLJを楽しんだヨツシー。詳しくは62ページから始まる本編にて。